

様式 4

令和 2 年度 第 2 回学校関係者評価報告書

鳥取県立米子工業高等学校  
校長 龍 田 浩 史

評 価 日	令和 3 年 2 月 1 2 日 (金)	
	評 価 ・ 提 言	学校の所見・改善策等
<p>1. 今年度の自己評価について</p> <p>(1) 重点目標の達成状況</p> <p>評価基準の欄に複数項目設定してある場合、すべて A ランクの基準を満たしていない場合は評価結果を A としていない。複数項目を設定した場合の評価結果の判定基準を明記するのが良い。</p> <p>(2) 説明・公表について</p> <p>結果・達成状況の数値が評価基準の目標値よりかなり良い。評価基準の適切な見直しが必要。</p> <p>2. 今年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について</p> <p>ラジオ体操や小学校の運動会の会場として利用させていただいたり、テクノボランティアやベンチの寄贈など地域に貢献する取組に感謝。地域の高齢化が進み、除雪への対応に不安を感じている。大雪の際には高校生の除雪ボランティアをお願いしたい。</p> <p>テクノボランティアについては、希望されている独居老人の方がいらっしゃるの、依頼方法を知りたい。</p> <p>小学校では Chromebook が導入されるので、職員、児童への指導を情報電子科に期待する。</p> <p>学校の取組をよく知らない方がるので、懸垂幕やホームページを活用して PR に努めて欲しい。</p> <p>3. 取組改善のための提言</p> <p>コロナが収束しても、全てのことがコロナ前に戻るとは思えない。アフターコロナを見据えた取組を行って欲しい。</p>	<p>複数の評価項目を設定している場合には、判定基準を自己評価表に明記する。</p> <p>最近の達成状況を基に、次年度の計画段階で評価基準の目標値を見直す。</p> <p>ニーズに対応した取組を行うことは、ものづくりの意義や他者へ貢献することでの自己有用感を感じる良い機会となるので、今後も継続して地域に貢献する活動を行う。</p> <p>ICT の活用による情報教育の変化は、今後の高校での教育にもかかわることであり、協力していきたい。</p> <p>コロナ対応で様々な取組が実施された。最初は心配もあったが、意外と活用できるものもあった。良いものは積極的に取り入れながら不透明なアフターコロナに備えたい。</p>	